



宝グループ 環境活動 REPORT 2022

1. 環境方針と取り組み
2. 活動内容
3. 環境データ
4. 宝の環境活動のあゆみ(環境活動年表)

宝ホールディングス株式会社
京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20
TEL: 075-241-5130

(2022年10月)

1. 環境方針と取り組み

宝グループ環境方針

宝グループは、地球環境の保全と事業活動の調和を経営の重要課題のひとつとし、環境マネジメントシステムを構築して継続的な改善に取り組み、持続可能な社会づくりに貢献します。

- 1 環境に関連する法令および組織が同意するその他の要求事項を順守します。
- 2 宝グループが行う事業活動の中、以下の項目について重点的に取り組みます。
 - ① 環境汚染の予防に努めます。
 - ② 省エネ・省資源を推進し、持続可能な資源の利用に努めます。
 - ③ 温室効果ガスの排出量を削減し、気候変動の緩和に努めます。
 - ④ 生物多様性や生態系の保護・保全に関わる活動を推進、支援します。
 - ⑤ 容器包装の3Rへの対応など、環境に配慮した商品開発に努めます。
- 3 環境活動への取り組みや環境パフォーマンス情報を積極的に開示し、社会とのコミュニケーションに努めます。
- 4 本環境方針は、教育啓発活動を通じて宝グループの全構成員に周知するとともに、社員の社会貢献活動への参加を積極的に支援します。

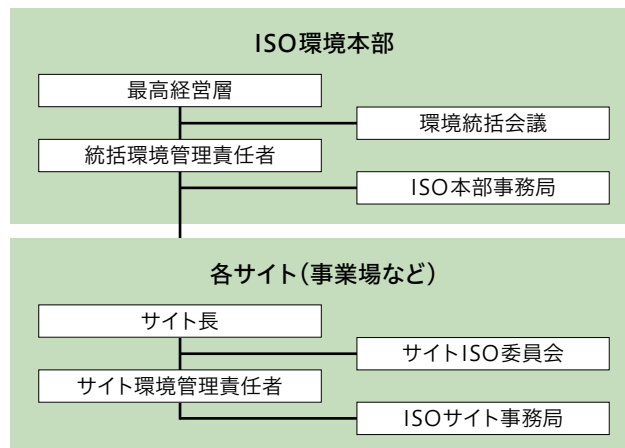
宝グループ環境マネジメントシステム

ISO14001に基づく環境マネジメント体制を確立

宝酒造の全工場、本社、および宝ホールディングス、宝酒造インターナショナルの本社で、ISO14001の認証を取得しています。

ISO環境本部を中心に、経営と直結した目標に向かって活動しています。

● 宝グループ環境マネジメント体制



環境関連法規の遵守状況

定期的に遵守状況をチェック

ISO14001のシステムを有効に利用して定期的なチェックを実施し、法規の遵守状況を確認しています。また、環境汚染の未然防止の観点から、自主基準を設定しています。

なお、2022年3月期における環境法令違反による罰金および処罰事項はありませんでした。

主要な環境関連法規

- 公害関係法規(水質汚濁防止法など)
- 廃棄物処理関係法規(廃棄物処理法など)
- 化学物質管理関係法規(PRTR法、毒物劇物取締法など)
- リサイクル関連法規(容器包装リサイクル法など)
- 省資源関連法規(省エネ法など)
- 防災・危険物関係法規(消防法など) など

1. 環境方針と取り組み

宝酒造の環境活動

宝酒造は、穀物や水、微生物など自然の恩恵を受けて酒類や調味料、酒精といった幅広い事業を行っています。このため、豊かな自然環境が保たれることは、当社が存続する上での大前提となります。一方、商品は、ガラスびんやPETボトル、紙パック、アルミ缶などの容器に詰めて販売します。商品が消費された後に発生する空容器は、社会に大きな環境負荷を与えています。以上の理由から、当社とのかかわりが深い「自然保護」と「空容器問題」への取り組みを環境活動の2本柱と位置付けてきました。

「自然保護」では、1979年にスタートしたカムバック・サーモンキャンペーンをはじめ、1985年に設立した公益信託「タカラ・ハーモニストファンド」、2004年開校の宝酒造「田んぼの学校」など、30年以上にわたりさまざまな活動に取り組んでいます。

「空容器問題」では、容器の3R (Reduce・Reuse・Recycle) を考慮した商品開発を進めるとともに、当社独自の取り組みとして、新たな容器を必要としない焼酎のはかり売り (Refuse) を加えた4Rの取り組みを推進しています。また、2012年より環境教育プログラム宝酒造「エコの学校」を開校しています。

宝酒造は自然と社会と人間との調和を大切にしています



2. 活動内容



目次

自然を考える ● 宝ホールディングス 「タカラ・ハーモニストファンド」

自然環境保全や生物多様性保全のための活動や研究に取り組む団体や個人を全国から公募し、広く支援し続けています。 4

自然を考える ● 宝酒造 「田んぼの学校」

次世代を担う子どもたちに、自然環境や生物多様性を守ることの大切さを伝えます。 5-6

空容器を考える ● 宝酒造 「エコの学校」

次世代を担う子どもたちに、ごみ問題の現状やごみを減らす方法について伝えます。 7

空容器を考える ● 宝酒造 「4R(3R+R)の取り組み」

リデュース、リユース、リサイクルの3Rにリフューズを加えた4Rに取り組んでいます。 8

自然を考える ● 宝ホールディングス 「タカラ・ハーモニストファンド」

宝ホールディングスは、1985年の創立60周年を機に公益信託「タカラ・ハーモニストファンド」を設立し、以来毎年、日本の森林や水辺の自然環境を守る活動や、そこに生息する生物を保護するための研究などに対して助成を行っています。助成先の選考は、自然科学分野の専門性の高い有識者により構成される運営委員会により行われます。2022年度は、多数の応募の中から「たましまの未来に渡り鳥の集う干潟を残したい!!」など11件の自然環境保全に関する活動・研究が選ばれました。37年間の助成件数はのべ401件、助成金累計額は1億8,980万4千円となりました。



たましまの渡り鳥

● 2022年度タカラ・ハーモニストファンド助成先一覧

	助成先・代表者名	地域	テーマ
活動の部	動物生態学研究室	山形県	50年放棄水田の復活プロジェクト
	つくば里の生きものくらぶ	茨城県	農作業体験と生きもの観察会による食生活と身近な緑空間の必要性を考える地域支援事業
	恩田の谷戸ファンクラブ	神奈川県	恩田の谷戸の竹林・小川・田畑の保全活動
	たましま 干潟と鳥の会	岡山県	たましまの未来に渡り鳥の集う干潟を残したい!!
	上小丸川漁業協同組合	宮崎県	絶滅危惧種となったニホンウナギにとって好適な自然環境の整備に向けた調査
	特定非営利活動法人 西表島エコツーリズム協会	沖縄県	西表島・浦内川における希少魚類のモニタリング
研究の部	野田 英樹	山梨県 石川県	山梨県の淡水ガメ生息調査および石川県の淡水ガメ長期調査
	大河原 恭祐	福井県	鳥類による種子散布の変動と異常気象の関連について
	惣田 彩可	京都府	年間を通じたミソサザイの生態に関する調査
	高原 輝彦	鳥取県 島根県	絶滅危惧種タガメの生息予測モデルの開発と保全への活用
	長谷川 匡弘	長崎県	島嶼草原の送粉生態系及び絶滅危惧種ヒメツルアズキの繁殖生態の解明

自然を考える・宝酒造 「田んぼの学校」

2004年より、小学生とその家族を対象に、自然環境や生物多様性を守ることの大切さや自然の恵みのありがたさを伝えることを目的とした環境教育&食育を実施しています。5月から12月までの約半年間に京都府南丹市の田んぼでの稲作体験や自然観察、京都市のクッキングスクールでの料理教室などの授業を4回にわたって行ってきました。2022年はWeb上で「田んぼの学校オンライン」を開校し、より多くの方にご参加いただける仕組みを提供しています。

※ 新型コロナウイルス感染症防止のため、2020・2021年に引き続き2022年も現地開催を中止いたしました。

春

田植え編

田植え体験では、20cmほどに育った稲の苗をみんなで植えます。自然観察の授業では、「はじめよう自然観察 五感を使って」をテーマに2~3家族ずつの班に分かれて、自然観察講師と一緒に田んぼの周辺の生き物を観察しました。

田植え体験



苗を手に田植えスタート

自然観察



自然観察講師の話に興味津々

夏

草取り編

草取り体験では、生育の妨げとなる草を抜いたり田んぼの土の中に埋めたりして、稲が育ちやすい環境をつくります。自然観察の授業では、「生きるための知恵と工夫」をテーマに、トゲや臭いで危険から身を守る植物など、たくさんの生き物を観察しました。

草取り体験



根が張った草を手で抜くのは一苦労



草取りマシーン「田打ち車」を体験

自然観察



昆虫をつかまえてみんなで観察

秋 収穫編

稲刈り体験では、1mを超える大きさに育った稲を鎌で刈り取ります。また、千歯こぎやこぎばしによる脱穀も体験しました。自然観察の授業では、「命のつながり」をテーマに、いろいろな方法で子孫を残す生き物の知恵を学びました。

稲刈り体験



初めての稲刈りは難しい

脱穀体験



昔の脱穀を体験。力が必要だ

自然観察



捕まえたトンボをよ〜く観察！

冬 恵み編

料理教室では、収穫したもち米や本みりんなどを使って親子で料理をつくります。大人を対象とした「みりんの楽校^{がっこう}」では、本みりんや料理清酒についての知識を深めます。その間、子どもたちは、田んぼの学校特製本みりに貼るラベル^{しめかざ}を作りました。最後に、田んぼで収穫した稲わらを使って、お正月にかかせない「注連飾りづくり」を体験しました。

料理教室



親子で楽しく料理づくり



自分で作ったお料理は格別だね

注連飾りづくり



注連飾りづくりに挑戦

宝酒造「田んぼの学校オンライン」

2022年は、より多くの方に参加していただけるよう宝酒造「田んぼの学校オンライン」をweb上で開催しています。6月から11月までの間、稲が育つ様子の動画や田んぼ周辺の自然観察ができる動画を配信し、おうちで田んぼ体験キットを使ったお米作りの様子を投稿できる「みんなの栽培日記ページ」を開設しています。



空容器を考える ● 宝酒造 「エコの学校」

宝酒造「エコの学校」は、小学3～6年生とご家族を対象とした環境教育プログラムで、2012年から開催しています。これまで、京都市、神戸市、東京都江東区、名古屋市などの環境学習施設を中心に開催してきました。

プログラムでは、ごみ問題の現状やごみを減らす方法について、リサイクル体験を交えながら楽しく学びます。

※ 新型コロナウイルス感染症防止のため、2020・2021年に引き続き2022年も現地開催を中止いたしました。

1 時 限 目

1 時限目は、映像を使った「ごみて何?」「家庭でごみを減らす方法」の授業です。ガラスびんやPETボトルなどの3R(スリーアール)について学びます。



2 時 限 目

2 時限目は、びんからできるガラスカレット(ガラス片)を使ったリサイクル体験です。色とりどりのガラス片を並べて貼り付け、オリジナルのカレットアートを作ります。



空容器問題を考える ● 宝酒造 「4R(3R+R)の取り組み」

空容器問題への取り組み

空容器の発生回避に向けて

一般家庭から出るごみの約6割(容積比)は、容器包装が占めています。

宝酒造ではこの空容器の問題に対処するため、リデュース(Reduce: 減量化)、リユース(Reuse: 再利用)、リサイクル(Recycle: 再資源化)の3Rにリフューズ(Refuse: 発生回避)を加えた4Rの取り組みを進めています。

リフューズとは、余分なものを買わずに必要な物だけを買うことにより、ごみを減らす活動です。「はかり売り」は、容器を購入せず必要な分だけ中身を買うという意味でリフューズにあたります。



焼酎のはかり売りの展開

宝酒造独自の活動として、焼酎のはかり売りを展開しています。

焼酎のはかり売りでは、当社の工場で1ℓや200ℓの専用タンクに焼酎を充填し販売店に直送します。お客様は家庭にあるPETボトルなどの空容器を販売店に持参し、専用タンクから必要な分だけ容器に詰めて購入します。

「はかり売り」は、資源の節約や廃棄物の削減を実現するために人手を使う販売手法であり、消費者、販売店、メーカーの信頼関係をベースにお互いが協働することで成り立っています。

1998年の開始以来2022年3月までに、2.7ℓペットボトル換算で約999万本を節約することができました。

環境に配慮した製品の開発

宝酒造では、「環境に配慮した商品開発のための指針」や「環境配慮型商品開発に関する手順書」を作成し、資材調達や商品開発においてISO14001の環境目標を設けて、容器の3R(リデュース、リユース、リサイクル)に配慮した商品開発を継続的に進めています。

紙パック製品や梱包用の段ボールでは、森林認証紙の採用やバイオマスインクの使用を進めています。また、壺・缶製品では容器の軽量化やラベル・シール等の廃止に取り組んでいます。

タカラバイオでは、アルミパウチパッケージの試薬については片面アルミレス化を進めています。また、紙パッケージについて、森林認証紙やベジタブルオイルインクの使用を進めています。

AWARD

「エコマークアワード2018」で「最優秀賞」を受賞



宝酒造株式会社の環境活動が、公益財団法人日本環境協会が主催する「エコマークアワード2018」において最高賞である「最優秀賞」に選定されました。

「エコマークアワード2018」は、日本環境協会が2010年に創設した表彰制度で、企業・公共・民間の各部門において、エコマーク事業の目的である「消費者の環境を意識した商品選択、企業の環境改善努力による持続可能な社会の形成」に向けて積極的に活動している企業・団体を表彰するものです。選考委員会の選考基準に基づく慎重な審査・選考の結果、「優秀賞」が選定され、その中から最も優れた取り組みに「最優秀賞」が授与されます。

今回の受賞はエコマーク認定の超軽量びんの導入をはじめ、アルミ缶やガラスびん、ペットボトルなど、あらゆる容器の軽量化を追求し、容器包装の3R(リデュース・リユース・リサイクル)に、宝酒造独自の4つ目のR(リフューズ: 発生回避)を加えた4Rという容器包装を中心とした、ごみ問題への継続的な取り組みや、地域の小学生を対象とした環境教育などの活動が、総合的に評価されたものです。

3. 環境データ

気候変動問題への対応

生産工程でのCO₂排出量削減

宝グループの2021年度の生産工程におけるCO₂総排出量は112.8千t-CO₂となり、前期比では0.6%の増加となりました。これは、2020年度のコロナ禍による大幅な販売数量の減少から、海外市況が復調して宝酒造インターナショナルグループの製造が増加したことや、タカラバイオの遺伝子・細胞プロセッシングセンター2号棟の実装化が進み、電気使用量が増加したためです。

なお、グループ全体のCO₂排出量の8割以上を占める宝酒造の生産工程でのCO₂排出量は93.6千t-CO₂となり、前期比2.2%の減少となりました。これは、高効率ボイラーへの更新、重油ボイラーのガス化、蒸留塔の廃熱再利用による蒸気量の削減など省エネ設備の導入や熱回収、設備運用の適正化に取り組んだ効果によりエネルギー効率が向上したためです。

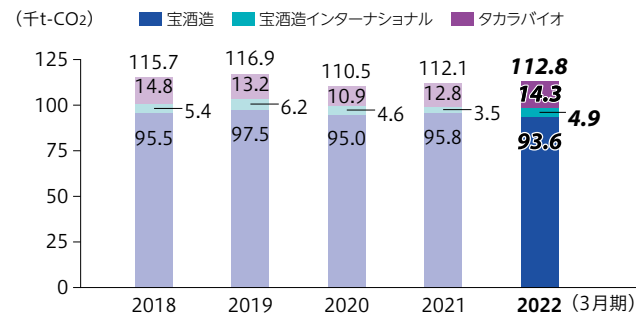
〈生産工程でのCO₂排出量削減の取り組み事例〉

- 高効率ガスボイラー、重油ボイラーのガス化等の省エネ設備の導入
- アルコール精製工程における蒸留条件の最適化
- コージェネレーション(熱電供給)システムの利用促進



マイクロガスタービン コージェネレーションシステム

宝グループの生産工程でのCO₂排出量(総排出量)の推移



〈集計範囲〉 宝酒造、Takara Sake USA Inc.、宝酒造食品有限公司、The Tomatin Distillery Co.Ltd.、タカラバイオ、宝生物工程(大連)有限公司、DSS Takara Bio India Pvt. Ltd.、Takara Bio USA, Inc.
 ※2019年2月まで瑞穂農林、きのこセンター金武含む

物流工程でのCO₂排出量削減

宝酒造では、物流の効率化や省エネ運転、モーダルシフトの推進、トラック輸送における製品積載率の向上などにより、輸送時のCO₂排出量の削減に取り組んでいます。2021年度の物流工程におけるCO₂排出量は15.6千t-CO₂となり、トラック輸送の積載率向上などの効果により、前期比1.5%の削減となりました。

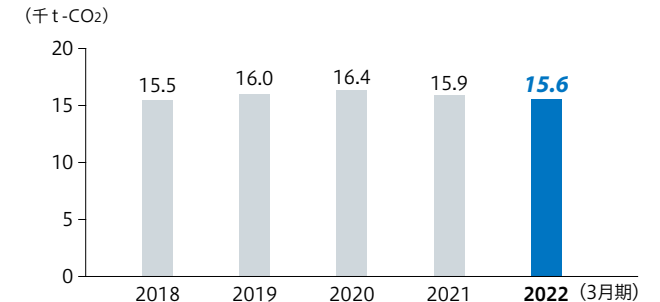
〈物流工程でのCO₂排出量削減の取り組み事例〉

- フェリー、鉄道などへのモーダルシフト
- 消費地生産による東西拠点間の転送の削減
- 物流子会社による高積載トラックの開発



専用タンカーでのアルコール輸送

宝酒造の物流工程でのCO₂排出量(総排出量)の推移



3. 環境データ

適正な水使用

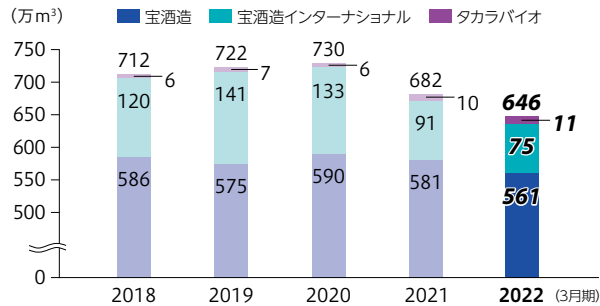
生産工程での水使用量の削減

宝グループの2021年度の生産工程における水の使用量は646万m³となり、前期比で5.2%の減少となりました。グループ全体の約8割を占める宝酒造の水使用量が561万m³となり前期比3.5%減少となったことに加え、宝酒造インターナショナルの海外グループ会社の生産設備更新により、水の再利用率が向上したためです。

水使用量削減の取り組み事例

- 製造設備の洗浄方法の改善による洗浄水削減
- 商品製造時容器洗浄水や冷却水の再利用

宝グループの生産工程での水使用量の推移



(集計範囲) 宝酒造、Takara Sake USA Inc. 宝酒造食品有限公司、The Tomatin Distillery Co.Ltd.、タカラバイオ、宝生物工程(大連)有限公司、DSS Takara Bio India Pvt. Ltd.、Takara Bio USA, Inc.
 ※2019年2月まで瑞穂農林、きのこセンター金武含む

廃棄物排出の抑制

工場廃棄物の削減および再資源化の推進

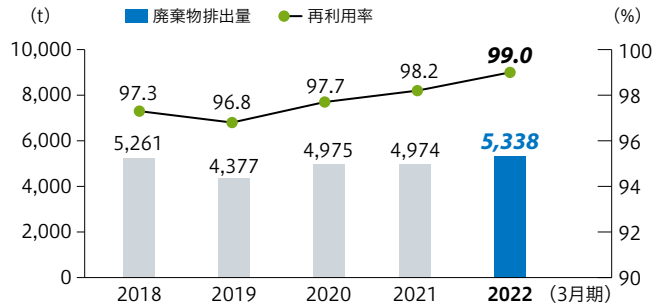
宝酒造の工場では焼酎粕などの副産物や排水処理汚泥、原料や容器の運搬資材などの廃棄物が発生します。そのため、焼酎粕などの食品系副産物を飼料化・肥料化するなど有効利用を図ることで、再利用率98%以上を維持するなど、工場廃棄物の削減に取り組んでいます。

2022年3月期の宝酒造の廃棄物排出量は5,338t(再利用率は99.0%)となり前期並みとなりました。

廃棄物削減の取り組み事例

- 焼酎粕飼料化設備の導入
- 排水処理汚泥の減容化

宝酒造の廃棄物排出量の推移



焼酎粕の飼料化設備

4. 宝の環境活動のあゆみ



